

未来への投資

国立市立第一中学校 三年 中村 凜香

夏休み、一人で塾に向っているときにいつも通っている道が工事され、綺麗になつていてことに気が付いた。この道が綺麗になつたのはどこかで誰かが払った税金のおかげなのだとということを考えると、今まで当たり前のように見えてきた景色が少し違つてみえた。

私たちが使う教科書や図書館、救急車や消防、道路や上下水道。大きな災害のあと、被災地を支える支援金も税金から生まれている。私はまだ税を納めていないのに、その恩恵を毎日のように受けている。税金は悪いものだと捉えられがちだけれど、多くの人の生活を支える大きな力になつていて思う。もちろん、税金の使い方について疑問を感じるニュースを見ることがある。しかし、それは私たちが政治に関心を持ち、まずは「知る」という第一歩を踏み出すことで少しでも改善できるのではないかと思う。今はまだ選挙権がないため、直接関与することはできないが、知識を得ることはできる。それが後に判断する材料として役立つに違いない。

大人になり、私が税を納める立場になつたら、いやいや払うのではなく次の世代が心地よく暮せるようにと思いを込めて納めたい。今、私の生活がたくさんの人々に支えられているように、大人になつたら支える側として社会に貢献できたらなと思う。自分一人では出来ないようなことも、税金を納めることで誰かを助けられる。大きな力が必要なことを、みんなで少しずつ分担する。この税による仕組が社会全体を繋いでいるのだと思う。

そして最近ニュースで子供の貧困について触れた。夏休み中、給食がなくて十分に栄養がとれていない同世代の子がいると知り、とても驚いた。それと同時に困っている子供達を救うために税を使って欲しいと思った。今日は教育費に対し、防衛費が三兆円ほど上回っている。一方で九人に一人が貧しい暮らしを送っている。貧困は、美味しいご飯を食べること、健康に生活すること、みんなにとっての当たり前を奪うことになる。もちろん災害の多い日本において安全保障も大切だと思う。しかし、それでも私は将来の安全をつくるのは「人の力」つまり教育だと考える。教育は貧困の連鎖を断ち、納税者を育て社会全体の力を底上げして行くだろう。

税はみんなのお金。将来私が働いて納めるお金が誰かの権利を守る力になるように、計画的な教育への投資を強めるべきであると提案する。